

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

道

四三紀

候

～令和8年新春号～



万九千神社（神々の宴と旅立ちの社）

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

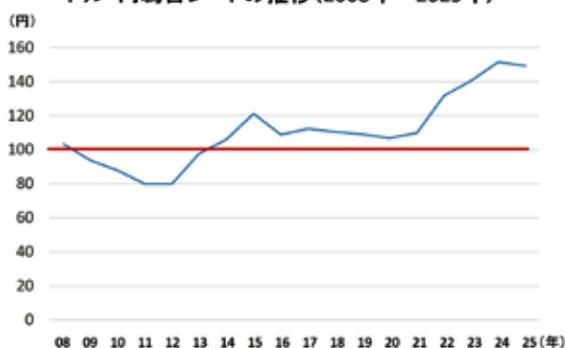


教授室より

新春を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年も変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

私事ですが、本年（2026年）3月で定年退官をれます。2008年5月に前任地・神戸市立医療センター中央市民病院より母校に戻ってまいりました。それ以来、約17年間、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

ドル・円為替レートの推移(2008年～2025年)



17年前（2008年）医局員は少なかったですが、「島根で働き、世界で学ぶ」をスローガンとして、循環器領域のスケールの大きさを知ってもらいたいと、若い先生たちの旅費を医局でサポートしてアメリカ、ヨーロッパの学会にどんどん出かけてもらいました。現在（2026年1月）1ドル156円ですが、振り返りまして、私の掲げた医局の方針にドル・円の為替レートが後押ししてくれたとあらためて思うところです。教授に就任した2008年5月は1ドル104円前後でしたが、その年にリーマンショックがあり、2008年12月には90円台まで円高が進みました。その後数年は80円～90円台で、2012年にかけては1ドル70円台にまで円高となりました。

私も円高の波に乗って医局員と一緒に旅をしましたが、ふだんの職場ではわからない医局員の素の姿を知ることもでき、「思いのほか積極的だな」、「英語ができるな」などその人を知る機会にもなりました。話す時間もたっぷりありましたので、日々のカンファレンスでは語れないキャリアについての話題、先輩としての人生論を語る機会もありました。コロナ禍前までは1ドル105円から110円の時代が続きました。

コロナ禍では海外に出られない時間が続き、学会もオンラインになりました。海外の学会には時差で夜中



2009年オーランドで開催されたAHA
(入局一期生の佐藤寛大先生、渡邊伸英先生)



2011年ESC(パリ)



2012年リトアニアに招かれて

に参加する必要があるなどもありましたが、現地に行かなくても情報が得られる時代となり、若い医局員はむしろ歓迎していたように思います。2021年～2023年にかけて1ドル120円台、130円台、140円台と円安が一気に進み、コロナ禍が明けたところで航空運賃もホテル代も高騰しました。海外の学会参加費は元々600～1000ドル前後と高いのですが、5～8万円の感覚だったのが10～15万円となり、参加費だけでも覚悟が必要です。論文もオンライン化が進み、論文掲載料も平均3000ドル（40～50万円）と高騰して各医局が頭を抱え

ています。2022年に海外渡航が解禁となりましたが、以後3年間の新入医局員の海外研修は近いところでハワイ島のエコーハワイとなっています。

17年間で医局員も増え、島根県内への医師派遣で貢献する医局に発展できたと思います。島根県でできる循環器診療はできるようになりました。医局員たちのらせん階段を上るような成長のおかげであり、時間が味方してくれたと思います。私を支えたリーダー論は「リーダーの反対語は悲観主義者」というものでした。否定的な側面に焦点を当てるのではなく、かといっ



2013年ESC(アムステルダム)



2015年エコー・ハワイ



2018年ESC(ミュンヘン)



2023年EACVI(バルセロナ)



左から2023年1月、2024年1月、2025年1月のエコー・ハワイにて



て樂觀でもなく、常にご機嫌で支援すること、そして派遣している医師たちのことを考える姿勢を心がけました。

1ドル160円前後の時代にスタートする新しい体制ですが、医局員たちの眼前の診療、教育、研究に必死に取り組む姿は変わることなく、これからさらなる発展を期待しています。皆様も健康にご留意いただき、益々のご活躍をお祈り申し上げます。最後にもう一度、ありがとうございました。



業績

論文・著書・総説（2025年春号以降掲載、掲載決定分）

1. Kishimoto K, Tobita H, Kataoka M, Yazaki T, Oka A, Ishimura N, Tanabe K, Ishihara S. Changes in hepatic density due to oral amiodarone-induced liver injury shown by computed tomography. Intern Med 2025;64(12):1828-1833
2. Morita Y, Endo A, Tanabe J, Imai K, Suehiro S, Yamazaki K, Tanabe K. Simultaneous coronary artery bypass grafting and transcarotid transcatheter aortic valve implantation using a cardiopulmonary bypass-assisted carotid perfusion. J Cardiol Cases 2025;32(4):163-166
3. Imaoka K, Tanabe J, Noguchi A, Fukuhara S, Nakao S, Oya N, Egusa N, Sakai Y. Current return-to-work outcomes and barriers among patients with cardiovascular disease undergoing cardiac rehabilitation. Circ Rep 2025;7:869-876
4. Hara S, Okada T, Moriyama M, Ichinose K, Tanabe K. A case of refractory systemic lupus erythematosus-associated pericarditis treated with anifrolumab. Intern Med 2025. Oct 16
5. Edayoshi M, Yokoi K, Yamaguchi T, Watanabe N, Node K. Isolated atrial myocarditis presenting with atrial arrhythmias and diffuse thickening of the atrial wall diagnosed via atrial biopsy: a case report. EHJ Case Reports (in press)
6. Makino H, Yasuda Y, Morita Y, Kawahara H, Kagawa Y, Endo A, Kanno H, Tanabe K, Urano T, Kanasaki K. Arterio-venous gradient of active interleukin-18 is associated with diastolic dysfunction: a cross-sectional study. ESC Heart Failure (in press)
7. Sakamoto T, Yamasaki S, Okada T, Endo A, Yoshitomi H, Sato S, Tanabe K. Prognostic impact of combinational elastography in patients with heart failure. J Clin Med (in press)
8. Hanamoto K, Tanabe J, Takasaki T, Yamasaki K, Tanabe K. Giant cardiac silhouette in an older woman with idiopathic chylopericardium. Circ Rep (in press)
9. 花本航希、田邊淳也、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. BRASH症候群の1例. 心臓 2025;57:1017-1021
10. 田中俊太郎、田邊淳也、津田洸旬、中島和寿、山崎誠太、岡田大司、渡邊伸英、磯部 威、田邊一明. アミオダロン投与早期に間質性肺炎をきたした1例. 心臓 2025;57:1181-1185
11. 三樹祐子、吉村真吾、佐々木健人、武 寛、中村紘規、庭前野菊、上吉原光宏、内藤滋人. 治療抵抗性心室頻拍への低侵襲手術：星状神経節温存心臓交感神経節切除. 心電図 2025;45:197-208

学会・研究会発表 (2025年春号以降)

1. <YIA 優秀賞>田邊淳也、森田祐介、山口まどか、吉志野海人、山崎誠太、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心不全入院患者における便秘の意義. 第126回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2025.6.25-29、高松
2. 花本航希、田邊淳也、古田まどか、吉志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、山口一人、佐藤寛大、渡邊伸英、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明、高崎 直、清水弘治、山崎和裕. 原発性乳び心膜に対して心膜開窓術が奏功した一例. 第126回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2025.6.25-29、高松
3. 長谷川友哉、田邊淳也、川原 洋、山口一人、花本航希、田中俊太郎、古田まどか、山崎誠太、吉志野海人、森田祐介、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心房細動を契機に診断に至った小細胞癌の左房内浸潤の一例. 第126回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2025.6.25-29、高松
4. 森田祐介、遠藤昭博、田邊淳也、山崎誠太、吉志野海人、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、今井健介、末廣章一、山崎和裕、田邊一明. 心肺-頸動脈シャントを用いたCABGと経頸動脈TAVIの同時施行. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2025 学術集会. 2025.7.17-19、大阪
5. 遠藤昭博、小田 強、城田欣也、明石晋太郎、山下 晋、内田利彦、太田哲郎、中澤芳夫、田邊一明. 高齢患者の非ST上昇型急性冠症候群に対する一次的経皮的冠動脈インターベンションの有効性. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2025 学術集会. 2025.7.17-19、大阪
6. 佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、Paul Sorajja. The Impact and Outcomes of Right Ventricular Lead Extractionin CIED-Related Tricuspid Regurgitation. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2025 学術集会. 2025.7.17-19、大阪
7. 坂本考弘. 臓器うつ血と血行動態をSwan-Ganzと心エコーでみる. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2025 学術集会. 2025.7.17-19、大阪
8. 坂本考弘、山崎誠太、岡田大司、北井 豪、田邊一明. 心不全患者の新たな臓器うつ血評価法の意義. 日本超音波医学会第61回中国地方会学術集会. 2025.9.6、広島
9. 岡田大司、田中俊太郎、田邊淳也、山崎誠太、山口一人、吉富裕之、田邊一明. 体位による下大静脈血流変化を経食道心臓超音波検査で評価し得たplatypnea-orthodeoxia syndromeの一例. 日本超音波医学会第61回中国地方会学術集会. 2025.9.6、広島
10. 田邊淳也、較嶋有紀、荒木もも子、岡田大司、佐藤寛大、遠藤昭博、山口皆美、古庄知巳、竹谷 健、田邊一明. MYH7およびTTRの病的バリエントが検出された肥大型心筋症の一例. 第73回日本心臓病学会学術集会. 2025.9.19-21、高知
11. 岡田大司、山口一人、山崎誠太、田邊淳也、森田祐介、川原 洋、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心エコー図検査による心機能評価の実態と課題-島根県内におけるアンケート調査-. 第73回日本心臓病学会学術集会. 2025.9.19-21、高知
12. 田邊淳也、川原 洋、森田祐介、岡田大司、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心不全入院患者におけるリポプロテイン(a)と心不全再入院の関連性. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子市
13. 田邊淳也. U40心不全ネットワーク企画. Which is better? GDMT同時導入 vs. 別々導入. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子
14. 山崎誠太. 症例セッション3. ケースに学ぶ心不全におけるマルチモダリティーの活用. 拡張型心筋症に活かす. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子
15. 田邊淳也. 今岡 圭、大矢菜穂子、森田祐介、岡田大司、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. ハートチームパネルディスカッション6. 地方大学病院における循環器疾患患者への就労支援の取り組み. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子
16. <優秀演題賞>杉原辰哉、田邊淳也、今岡 圭、大矢菜穂子、阿部寿子、三浦佳江、岡田大司、田邊一明. 臨床検査技師による心肺運動負荷試験の活用体制の構築と多職種連携の実践. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子
17. 大矢菜穂子、三吉由美子、田邊淳也. 心不全患者への緩和ケアチーム介入に対する病棟看護師の認識. 第29回日本心不全学会学術集会. 2025.10.10-12、米子
18. 田邊淳也、山崎誠太、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、新野大介、田邊一明. 劇症型心筋炎の急性期に施行した心筋生検でDiff-Quik染色による迅速細胞診を行った2例. 第47回心筋生検研究

会学術集会. 2025.10.17-18、札幌

19. 崎山貴也、石飛 茜、古谷昭人、中井重孝、吉田まどか、渡邊伸英. 上大静脈隔離後に上大静脈内で心房細動が観察できた一例. 第71回日本不整脈心電学会学術大会. 2025.11.12-15、横浜
20. 三樹祐子、吉村真吾、佐々木健人、中村紘規、庭前野菊、上吉原光宏、内藤滋人. Left ventricular reverse remodeling after cardiac sympathetic denervation for refractory ventricular tachycardia: a report of two cases. 第71回日本不整脈心電学会学術大会. 2025.11.12-15、横浜
21. Watanabe N, Furuta M, Tanabe J, Miki Y, Koshino K, Yamasaki S, Morita Y, Kawahara H, Okada T, Kagawa Y, Sato H, Endo A, Tanabe K. A case of situs inversus totalis undergoing pulmonary vein isolation and cavo-tricuspid isthmus ablation for paroxysmal atrial fibrillation. 第71回日本不整脈心電学会学術大会. 2025.11.12-15、横浜
22. Furuta M, Watanabe N, Miki Y, Tanabe J, Koshino K, Yamasaki S, Morita Y, Kawahara H, Okada T, Kagawa Y, Sato H, Endo A, Tanabe K. Catheter ablation for postoperative atrial tachycardia in two patients with repaired tetralogy of Fallot. 第71回日本不整脈心電学会学術大会. 2025.11.12-15、横浜
23. Okada T. Arrhythmia-induced functional MR/TR: when & how to intervene? Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery. 2025.11.12-14, Seoul
24. 木村碩達、山崎誠太、川波由佳、田邊淳也、古志野海人、岡田大司、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 機能的片腎の腎動脈狭窄に対し経皮的腎動脈形成術を行い、治療抵抗性高血圧の改善と心不全コントロールが得られた1例. 第133回日本内科学会中国地方会. 2025.11.22、岡山
25. 川波由佳、黒田紘章、内田利彦. 抗結核薬にステロイドを併用し治療が奏功した結核性心膜炎の1例. 第133回日本内科学会中国地方会. 2025.11.22、岡山
26. 三樹祐子. 心房細動のとなりに－変わる治療のかたち、アブレーションが日常になるとき－. 令和7年度日本医師会生涯教育講座. 2025.11.30、松江
27. 木村樹里、岡田大司、福田 星、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、中島滋記、城麻衣子、遠藤昭博、吉富裕之、安田謙二、中田朋宏、田邊一明. 収縮性心膜炎様の血行動態を呈したFallot四徴症術後成人の一例. 第127回日本循環器学会中国地方会、2025.12.13、広島
28. 山本悠太郎、福田 星、木村碩達、川波由佳、古田まどか、田邊淳也、山崎誠太、古志野海人、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. たこつぼ心筋症を繰り返した心アミロイドーシスの一例. 第127回日本循環器学会中国地方会、2025.12.13、広島
29. 福田 星、田邊淳也、木村碩達、山本悠太郎、川波由佳、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明、杉原辰哉、今岡 圭. 低左心機能症例の治療と仕事の両立支援に心肺運動負荷試験の結果を活用した一例. 第127回日本循環器学会中国地方会、2025.12.13、広島
30. 木村碩達、岡田大司、福田 星、山本悠太郎、川波由佳、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、遠藤昭博、吉富裕之、今井健介、末廣章一、山崎和裕、田邊一明. 右心系拡大により生じたリード関連三尖弁逆流症の一例. 第127回日本循環器学会中国地方会、2025.12.13、広島
31. 古田まどか、木村碩達、福田 星、山本悠太郎、川波由佳、田邊淳也、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、遠藤昭博、清水弘治、山崎和裕、田邊一明. 収縮性心膜炎と体液過剰関連大細胞B細胞リンパ腫を合併し方針決定に複数回の胸腔穿刺が有用であった一例. 第127回日本循環器学会中国地方会、2025.12.13、広島
32. 川波由佳、古志野海人、川原 洋、岡田大司、三樹裕子、吉富裕之、斎藤雄平、山崎和裕、田邊一明. 大動脈基部拡大と重症大動脈弁閉鎖不全症、左室肥大を合併した先端巨大症の一例. 第15回日本心臓弁膜症学会. 2025.12.19-20、広島
33. 福田 星、岡田大司、木村樹里、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、三樹祐子、中嶋滋記、城麻衣子、遠藤昭博、吉富裕之、安田謙二、中田朋宏、田邊一明. 収縮性心膜炎様の病態を呈したFallot四徴症術後遠隔期に肺動脈弁置換術を施行した一例. 第27回日本成人先天性心疾患学会. 2026.1.9-10、神戸
34. 山崎朱音、安田謙二、尾島優志、古川翔太、新田江里、後藤月美、岡田大司、矢野彰三、田邊一明. 第27回日本成人先天性心疾患学会. 2026.1.9-10、神戸



スペイン・マドリードで開催されたESC2025に、8月29日から31日の3日間参加させていただきました。マドリードは日差しが強かったですが、湿度が高くないおかげか心地よい暑さでした。夜は日が沈むのが遅く19時くらいでも昼のような明るさで、夜中まで多くの人が出歩いていました。昼夜の寒暖差が激しく、滞在期間中は朝15度くらいまで冷え込む日もあり、これも湿度が低いからなのかと思っていましたが、調べたらマドリードはそもそも標高約650mの高地（東京の高尾山は600mくらい）にあるようです。海外は硬水だと思っていましたが、マドリードの水は柔らかい感じがして、実は日本より軟水かもしれないらしいです。

マドリードは内陸部にあるためか、肉料理が多かったです（シーフードのパエリアは海が近いバルセロナの料理でした）。生ハムが有名なようですが、地元チーンのスーパーでも、ものすごい種類のハムや加工肉が売られていました。インスタントラーメンのコーナーには、なぜかヤキソバ味のカップ麺があり、調べると以前「味の素」(Ajinomoto Poland) が製造に関わっていたようです（味は悪くないですがちょっと薄いような）。チュロスをホットチョコレートにつけて食べるものが有名らしく（ヨーロッパにチョコレートを持ち込んだのはスペインらしいです）、朝ごはんがわ

りに食べに行きましたが、チュロス自体は甘くなく少し塩味を感じるあっさりした感じで、意外とくどくなく美味しかったです。

ESCに3日間参加し、ホットラインやガイドラインを中心に聴講しました。会場は日本の学会では普段感じないような熱気に

包まれ、そこにいるだけでワクワクするような雰囲気でした。高血圧症治療のホットラインでは、難治性高血圧症に対するBaxdrostat（アルドステロン合成酵素阻害薬）の有効性や、Zilebesiran（半年一回の投与のsiRNA 製剤）の降圧効果が示された試験結果を発表されており、近い将来には高血圧症にもsiRNA 製剤を使う時代が来るのかと驚きました。また、脂質のガイドラインのセッションでは、LDL-Cを下げる治療薬の中にBempedoic Acidがあり、特にスタチン不耐の患者における推奨が1Bとされていました。日本でも承認されれば使うようになるのでしょうか。これまでエゼチミブはスタチン追加後効果不十分な場合に追加するようになっていましたが、今回の内容では最初から併用して早期からしっかり下げることを推奨していました。話題のLP (a) についてはまだあまり新しい内容はありませんでしたが、RNA治療薬の臨床研究が進んでいるようです。がん患者では、スタチン投与で抗がん剤の心毒性を予防する効果が示され、抗がん剤使用中の患者にスタチン投与を考慮することを推奨する（と言っていたような、、）という内容もあり、今後スタチンを使う場面がさらに増えるかもと思いました。eポスターも少し見に行きましたが、想像していたより日本人の発表がたくさんあって少し驚きました。





8月30日には神戸大学の先生方とレアル・マドリード本拠地でサッカーの試合を見ることが出来、初めて見るサッカーの試合が世界最高峰のものとなりました。神戸大学循環器内科には、大学時代同期で仲の良かった小田先生が所属していて少し話題に出ましたが、彼女は今エコーの分野を中心に頑張っているようで、近況を知れて良かったです。徒歩圏内に三大美術館があり、プラド美術館やソフィア王妃芸術センターにも行きました。マドリードの歴史を少し学びつつ、有名なゲルニカも見ましたが、私はここで現代美術のジョアン・ミロの作品を知り、とても好きになりました。

最終日午後はどうするか迷っていましたが、「スペインに1日しかいないなら迷わずトレドに行け」という

格言を知り、迷うのをやめてトレドに行きました。スペインの元首都で世界遺産に登録されている都市でとても綺麗な街並みでした。川に囲まれて自然の要塞都市になっているようです。夜景もとても綺麗らしいのでいつかまた見に来たいです。



今回は岡田先生にたくさんの機会を作っていただき、日本や世界で活躍するいろんな先生方のお話を聞くことができ、非常に刺激になりました。また、今まであまり意識していなかった留学も少し興味を持てました。初めてのヨーロッパ、初めての海外学会でしたが、本当に楽しい時間を過ごすことができ、これからは毎年ESCに行きたいと思いました。次は発表で行けるよう頑張ろうと思います。



学会報告 第73回日本心臓病学会

田邊 淳也

2025年9月19日～21日、高知市で開催された第73回日本心臓病学会に参加、発表しました。今回私は「MYH7およびTTRの病的バリエントが検出された肥大型心筋症の一例」を報告してきました。実は、今回自分にとってはチャレンジングな発表内容で、当院の臨床遺伝・ゲノム医療センターや信州大学の遺伝子医療研究センターの先生方に遺伝学の基本からご指導いただきながらなんとか形にできました。メイン会場とは離れた県民文化ホールでの発表でしたが、席の7-8割は埋まっているような状況で、座長・コメンテーター

との建設的なやり取りも多く、学術的な議論に嬉しくなりました。

学会では「会長講演」を出来るだけ聴講するようにしており、高知大学の北岡教授の「高知と心筋症」というタイトルで、最近心アミロイドーシスの話ばかりでしたので非常に楽しみにしていました。個人的におもしろかったのが、日本ではapical HCMは予後良好であるのに対して、海外では（Maron先生など）他のHCMと同じように予後が悪いという部分で非常に熱い議論が交わされてきたというものでした。なんでも「純粹なapical

HCM」とそうでないものをきちんと分類出来ていないということでした。また、HCMの長期経過をみていった時に、短期的には予後の良い群とイベントを起こす群に分かれるものの、その後も一定の割合でイベントを起こしてくることから、各表現型・各フェーズに応じた治療介入を行いフォローしていくことが重要なようです。北岡教授は「HCMでEF 65%は収縮が保たれていると言えるが、EF 55%は何かしら収縮不全があると考えていんじゃないかな」とおっしゃっておられ、マバカムテンの使用時に注意するポイントになるとのことでした。



学会報告 第29回日本心不全学会

田邊 淳也



島根大学医学部附属病院（以下、当院）では、循環器内科医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、退院支援スタッフ、臨床工学技士、臨床検査技師などによる多職種チームで、心不全患者さんの療養支援に取り組んでいます。

2025年10月10日(金)～12日(日)に米子市で開催された第29回日本心不全学会学術集会には、当院の心不全多職種チームのスタッフが参加し、心不全における多職種連携や地域連携について、最新の知見や他施設で

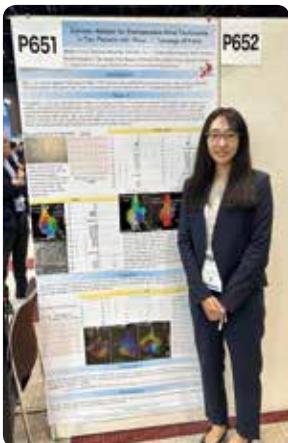
の取り組みを学びました。当院からは循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、理学療法士、臨床検査技師が市民公開講座を含め、計7演題を発表しました。そのうち、心臓リハビリテーションのセッションでは、当院の臨床検査技師・杉原辰哉さんの発表「臨床検査技師による心肺運動負荷試験の活用体制の構築と多職種連携の実践」が最優秀賞に選ばされました。

また、心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職の資質向上を目的として、2021年度より「心不全療養指導士」認定制度が開始されました。当院循環器内科では資格取得を推進しており、今回の学会には心不全療養指導士を目指して勉強中のスタッフも参加しました。今後も学会で得た知見を日常診療や多職種連携、地域連携に活かし、心不全患者さんの療養・生活支援をより充実させてまいります。



学会報告 JHRS／日本不整脈心電学会

三樹 祐子



JHRS/日本不整脈心電学会（11月12日～15日@パシフィコ横浜ノース）に参加してまいりました。Asian-Pacificの不整脈学会（APHRS）と同時開催だったため、海外参加者がとても多く、横浜にいながら国際学会の雰囲気を感じる事ができました。

PFA：昨年以降、PFAは不整脈業界を席巻しております。RFとPFAが切り替え可能なカテーテルや未承認のsingle shot device、nano second PFAなど、様々な開発が紹介されており、その勢いを強く感じる3日間でした。一方、組織選択性や熱の発生について。当初の想定とは異なる報告も散見されてきました。例えば、発生しないと言っていた「横隔神経麻痺」の出現や、非熱性とうたわれながら熱が発生しstrokeに繋がったなどです。また、施設間でDurabilityが大きく異なることが強調されておりました。ひとつひとつ、しっかりと手技を行なう必要があると考えさせられました。

Beyond LVEF：ヨーロッパの14万人の心臓突然死のデータ、EF<35%はリスクにならなかった。Beyond

LVEFは今後の潮流となるだろうとのこと。Beyond LVEFは、本学会で最も記憶にこったネーミングでした。福田先生を悩ませた「35%」はなくなってしまうのかもしれませんね…。要注目です。

【発表】 渡邊先生からは「完全内臓逆位の患者様へのAFアブレーション」について、古田先生からは「repaired TOFの患者様へのATアブレーション」について、ポスター発表がありました。演題について相談を受けた際から、「難しい状況の中でしっかりと治療を完遂なさっており、とても素晴らしい症例だ」と感じておりました。また、崎山MEからは「上大静脈隔離術後に上大静脈内でAFが確認できた症例」についての発表があり、ディスカッサーとしてもお役目を果たされました。さらに、石飛MEも熱心に参加されており、MEの皆さん非常に頼もしい存在であることを改めて実感しました。

私個人は、Bilateral CSDのHFに対するニューロモデュレーションの可能性について、発表させていただきました。座長の先生からは好意的なご発言をいただけ、ほっといたしました。ちょうど、星状神経節温存CSDについて不整脈学会誌「心電図」で掲載されたタイミングだったので。時折、声をかけていただくことができました。英文にできなかったことを悔やんでおりましたが、これはこれで良かったのかなと思いました。

学会報告 第127回日本循環器学会中国地方会

田邊 一明



2025年12月19日(土)広島医師会館、広島コンベンションホールで第127回日本循環器学会中国地方会、日本心臓リハビリテーション学会第11回中国支部地方会が開催されました。朝一番、来年度入局の浜田医療センター初期研修医2年目・船津俊希先生の発表でスタートしました。難しい症例を立派に発表されていました。大学初期研修医1年目・木村樹里先生、循環器内科専攻医の3人、古田まどか先生の発表、そのほか

座長、審査員、コメントーター、ディスカッサントやU45、ダイバーシティ委員会など医局から多くの先生が参加で盛り上げていただきました。

2026年春の日循中四国合同地方会は川崎医大・上村先生が会長で2026年6月6日(土)~6月7日(日)岡山

コンベンションセンターで開催されます。2026年秋の日循地方会は島根大学心臓血管外科・山崎和裕教授が会長で11月14日(土)松江市くにびきメッセで開催されます。心リハ中国支部地方会は松江市立病院の太田哲郎部長が会長で同時開催されます。みなさんご参加ください。



学会報告 第15回心臓弁膜症学会

田邊 一明



第15回日本心臓弁膜症学会が2025年12月19日(土)、20日(日)広島コンベンションホールで開催されました。三尖弁閉鎖不全症に対する治療、僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル治療

(M-TEER) や形成術が繰り返し議論されました。三尖弁閉鎖不全症の右室機能評価は依然として議論となり、経カテーテル治療も始まりますので三尖弁に対する介入の考え方も変わってくると思います。内科医にとって外科手術を知る機会でもあります。僧帽弁逸脱に対するロボット手術は傷跡も小さく(開胸しません、と

説明されるそうです) M-TEERと回復過程に差がないのであれば、ロボット手術を選択したくなってしまいます。心房性MRは左室が大きくなれないMR、という尾辻豊先生の講義はこれだけでも学会参加した理由にできるものでした。

医局からは川波由佳先生が先端巨大症の大動脈弁閉鎖不全症に対する手術症例を発表されました。弁膜症学会に参加して「外科医が楽しそうに議論するのがいい」という感想を聞けてうれしくなりました。

本学会の創設に関わられた世界的な僧帽弁形成術の名手、元神戸市立医療センター中央市民病院心臓外科・岡田行功先生が2025年10月にご逝去されました。今回は急遽「岡田行功先生を偲ぶ」セッションが開催され、2000年から8年間一緒に神戸で仕事をさせていただいた私と本学会理事長の高梨秀一郎先生が座長を務めさせていただきました。岡田先生には島根からの患者も手術していただきました。ありがとうございました。



同門会長挨拶

佐藤内科クリニック 佐藤 秀俊



例年より気温は高めではありますが、寒暖の差で肌寒さを感じるようになってまいりました。同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

令和7年度の同門会総会を本年11月1日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて無事開催することが出来ました。今年度から資料室をお預かりいただいている2名の医局秘書様の多大なるご協力を得ましたことを厚く御礼申し上げます。今回は田邊教授在任期間最終会の同門会総会であったためか、遠方から数

年ぶりにご参加していただいた同門会員の先生方も多数おられ懐かしい話が尽きることなく大盛会となりました。ただ司会進行の私には至らぬ点が多々あったことと思いますが、どうかご容赦の程よろしくお願ひいたします。第一部では私から無理を申し上げ田邊一明教授にご講演いただきました。田邊教授のご専門分野である心臓超音波検査のお話をアメリカ留学中のエピソードやご家族とご一緒に写真などもご提示いただき非常に興味深いご講演をしていただき大変有意義な講演会となりました。第二部は同門会の事務的な報告の後に懇親会でしたが、これも中締めの時間を忘れそうになるくらい盛り上りました。久しぶりに会う同期のメンバーで写真を撮ったり楽しい時間を過ごすことができました。ご参加くださいました皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。





次回は令和8年10月31日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて同門会総会を行います。また改めて皆様にはご案内いたしますので、ご協力、ご参加のほど重ねてお願い申し上げます。

また翌日は田邊杯ゴルフコンペが井上慎一副会長のご準備の下に開催されました。遠方からのご参加もあり、また5組と賑やかで笑顔が絶えない楽しいラウンドであったと思います。神戸からご参加の北村順先生は足関節の捻挫を受傷しておられましたが、何としても参加したいと強い意志でご参加いただきました。結

果報告など詳細につきましては井上副会長からご報告があると思いますのでそちらをご覧ください。

今年度で田邊一明教授がご退官になり大変寂しくなりますが、今後も盛大な同門会総会およびゴルフコンペが開催できるよう準備して参ります。皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。これからも私と井上副会長更で内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。

令和7年12月

すごいぞ心臓

伊藤医院 伊藤 新平



2025年12月14日、「すごいぞ心臓」と題した子ども向け心疾患啓発イベントが開催され、私も参加いたしました。本イベントは、ヘルスサイエンスセンターにある「まごころばんく」が主催し、展示とサイエンストークの二部構成（午前・午後）で行われました。

サイエンストークでは、まごころばんくの移植コーディネーターの方、心移植体験者の方、そして私の三名で登壇し、心臓の働きのすばらしさ、心臓の病気、治療（VADや心臓移植を含む）、そして予防の大切さについて、クイズ形式を交えながらお話ししました。また、聴診器を子どもたちに貸し出し、自分自身の心音を聞いてもらう体験も行いました。

トーク終了後には、以下の5つの体験ブースを設けました。

- ◆自身のモニター心電図を見てもらう体験
- ◆実際の補助人工心臓（VAD）に触れてもらう体験
- ◆塩味チェックシートを用いた塩味閾値の測定
- ◆灯油ポンプを右心・左心に見立て、肺循環・体循環を体感する体験
- ◆実際の心臓（豚心）に触れる体験

当日は100人を超える子どもたちが体験に参加し、保護者の方々も含め、予防の重要性を含めた心疾患啓発が十分に行えたと感じております。今後もこのような啓発活動を継続していきたいと考えており、8月10日の「健康ハートの日」にあわせたイベントについては、ぜひ島根大学の先生方ともコラボレーションさせていただけましたら幸いです。





行事・写真集

(2025年7月~)



7月 医局説明会



8月 不整脈グループと



8月 ゴルフ北海道合宿



札幌心臓血管クリニックの先生方と



9月 超音波医学会地方会（広島）



9月 地域医療連携センター



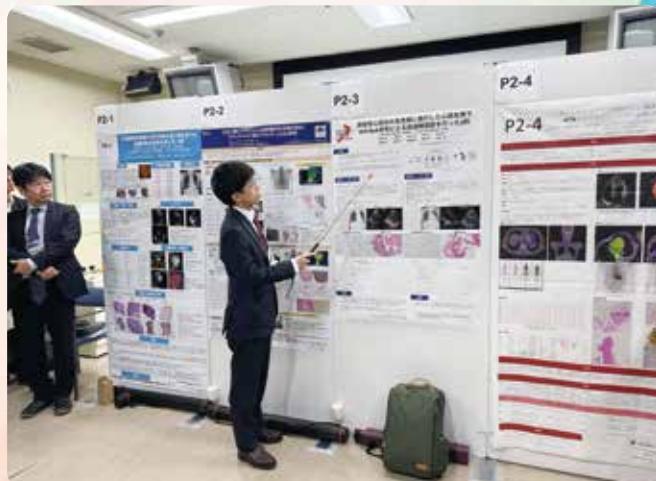
9月 創立50周年記念祝賀会



10月 Echo Heart Izumo



10月 島根臨床心エコー図研究会



10月 心筋生検研究会（札幌）



11月 サッカー部OB戦





11月 内科学会地方会（岡山）



11月 浜田にて



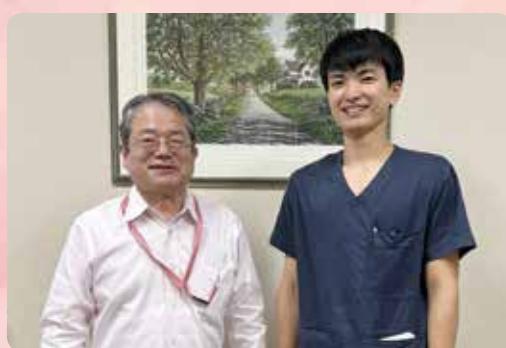
11月 江津にて



12月 大田地区同門の先生方と



12月 循環器内科忘年会



2026年度入局の船津俊希先生



第32回第4内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告



同門会ゴルフ幹事 井上 慎一

令和7年11月2日、第32回田邊杯ゴルフコンペがいざも大社カントリークラブで開催されました。前日は雨に見舞われましたが、当日は天候も回復し、曇り空ながらも絶好のコンディションのもとでの開催となりました。

今回、佐藤寛大先生が見事2連覇を達成されました。最終組からのスタートでしたが、序盤は冷静にスコアを重ね、後半にはついにトップに躍り出る展開。秋の空気が少し冷たく感じられる中、タイガー・ウッズと見紛う赤い半袖姿で臨まれたその気迫は、まさに王者の風格でした。力強いショットで他を圧倒し、堂々の優勝を飾られました。心よりお祝い申し上げます。ニアピンは梅野哲弘先生、後藤泰利先生、北村順先生、森田祐介先生が獲得され、ドラコンは、今回初めてご参加くださった三樹祐子先生が放たれた豪快なショットが見事に受賞となりました。初心者とは思えぬ飛距離に驚かされました。

今回も終始和やかな雰囲気の中でプレーが進み、先生方との親睦が一層深まる一日となりました。

ゴルフというと、「仕事には関係のないお遊び」「タイプが悪い」といった印象を持たれる方も少なくありません。確かに一日を要するスポーツではありますが、その時間の中には、日常の診療や業務では得られない会話や気づきがあり、思いがけない出会いや学びもあります。それこそがこのコンペの大きな魅力であり、価値だと感じています。今後もぜひこの田邊杯が続いていくことを願っております。ご参加いただいた先生方に、改めて厚く御礼申し上げます。



順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	佐藤 寛大	42	43	85	12	73
準優勝	井上 慎一	47	49	96	20.4	75.6
3位	後藤 泰利	43	44	87	9.6	77.4
4位	森田 祐介	54	51	105	27.6	77.4
5位	北村 順	53	46	99	20.4	78.6
6位	山口 直人	56	56	112	31.2	80.8
7位	田邊 一明	66	62	128	43.2	84.8
8位	佐藤 秀俊	55	58	113	27.6	85.4
9位	梅野 哲弘	63	58	121	34.8	86.2
10位	木村 碩達	67	61	128	36	92
11位	岡田 大司	75	69	144	49.2	94.8
12位	山本悠太郎	65	78	143	48	95
13位	渡邊 伸英	68	78	146	46.8	99.2
14位	三樹 祐子	79	71	150	48	102
15位	福田 星	70	86	156	52.8	103.2
16位	古田 まどか	77	84	161	52.8	108.2
17位	川波 由佳	91	81	172	50.4	121.6



道

編集後記

人生が美しいのは
旅の途中で出会う人たちのおかげです。
多くの感動をありがとうございました。

(田邊)



島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html